

続

女のせりふ

伊藤雅子



続

女のせりふ

伊藤雅子



続 女のせりふ

2014年 5月15日 初版発行

著 者 伊藤雅子

発 行 株式会社 福音館書店 
郵便番号 113-8686
東京都文京区本駒込6丁目6番3号
電話 販売部 (03) 3942-1226
編集部 (03) 3942-2084
<http://www.fukuinkan.co.jp/>

印 刷 図書印刷株式会社

製 本 積信堂

- ・乱丁・落丁本は小社出版部宛ご送付ください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
- ・NDC 914/338ページ/18×13センチ
- ・ISBN 978-4-8340-8097-1

Inspired by Voices of Japanese Women, vol.2

Text ©Masako Ito 2014

Illustrations ©Ken'ichi Yamada 2000, '03, '04, '07, '09, '11, '12, '14

Published by Fukuinkan Shoten Publishers, Inc., Tokyo, 2014

Printed in Japan

日本音楽著作権協会(出)許諾第1402410-401号

続女のせりふ
目次

- 121 寄りかからず 22
- 122 お福分けです 24
- 123 しっかり夫婦喧嘩をしたほうがいいわよ 26
- 124 夫に協力はしてほしくないわ 28
- 125 親の教育までしてられないのだけどね 30
- 126 子どもまで、ばかし言葉ですよ 32
- 127 高等教育はなんのために受けたか まっ直ぐに生きるためだろうが 34
- 128 いい人間関係と思ってたけど、同調してくれる人とはかりつきあってただけかも
- 129 相手の男性をしっかり教育できたときが産みどき 38
- 130 あなたは一人で生きられるのね 40
- 131 手づくり主義に反対でしょうから 42
- 132 そんなことしたら離婚もできなくなるよ 44
- 133 女は燃えなかったの？ 46

- 134 そんな男は餓死すればいいのだ 48
- 135 孤立した暮らしに子どもを迎えてはいけない 50
- 136 すべての駒が連携し合っている棋譜を美しいと思う 52
- 137 夫は、私と一心同体だと思ってるらしいのよ 54
- 138 「この時間は、私の不可侵領域よ」って言うのである 56
- 139 なぜ、親は生んだだけで親になれるのか 58
- 140 悪口を言わない人って安心できないね 60
- 141 彼には、「妻に耕されている」という自負がある 62
- 142 「やられたらやり返せ」では直らないでしょ 64
- 143 会社に属しているのは夫で、私ではないのだから 66
- 144 結婚したいとは思わないけど、子どもはほしい 68
- 145 結論なんてないのにね 70
- 146 焼きほろぼさむ天の火もかも 72

147 すばらしい男性の前で涙を流して女性の武器だと言われてみたい

74

*

148 うちの子は前からかわいいわよ 78

149 おかあさん、おとうさんをおいていかないでよ 80

150 私たちとつきあわなくなったからだと思う 82

151 母・祖母・おみな牢に満つるとも 84

152 加担しないことを誓い合いましょう 86

153 話が噛み合っていないことに気づけなくてたいへん 88

154 思いやりがあぶないのよね 90

155 ややこしいおばさんになりたくないから 92

156 主人への貸しはもう時効かな 94

157 生まれてこなければよかったいのちなんて、ない 96

158 天敵をもたぬ妻たち 98

159 離婚してシアワセになつちやいけないみたい 100

160 自分の子でもない人に「おかあさん」と呼ばれたくない 102

161 弟の名が新しい戦争のために利用されてはならない 104

162 母親がどのように歴史に参加しているか、子どもは見ているものです 106

163 障害者だからって他人に迷惑をかけてもいいのですか 108

164 せっかく女なのに 110

165 「夫」が口語になつてきた 112

166 囚徒のごとく 114

167 子育ては楽しいやないけどオモシロイ 116

168 あなた、子どもがいて、ほんとうによかったわねえ 118

169 臆病がいけないと誰が言つた 120

170 あれは、与えていただけだった 122

171 きづなは地にあこがれは空に 124

172 たいへんが面白い 126

173 ああ何かさびしいことが起きてゐる 128

174 あなたって、面倒くさくない人ね 130

*

175 生き甲斐というのも自分一人じゃ持ちにくい 134

176 自分だけは違う 136

177 人の世話やきばかりでなく自分の暮らしをたいせつにしたい 138

178 クロツカスほども名まえを呼ばれずにゐる 140

179 春ですもの 許されていいんじゃないやありません 142

180 こういうセンスの人とばかりつきあつてゐるのね 144

181 私、蝶々になっちゃった 146

- 182 好きなお茶碗を使えない暮らしが寂しい 148
- 183 無能というのときには役に立っているのよ 150
- 184 良妻賢母の実物は初めてよ 152
- 185 わが名よびしか母の名よびしか 154
- 186 おばあさんのイメージ革命ね 156
- 187 年を取ることはとってもいいことだと思えます 158
- 188 充実しているけれど、満足はしていません 160
- 189 わたしが居ない 162
- 190 「心災」復興にははてしない時間が必要です 164
- 191 人を殺せとをしへしや 166
- 192 女同士じゃないの 168
- 193 しつかりと飯を食はせて 170
- 194 また、愚痴をきいてあげるから 172

195 彼女は、人の手足になるのがイヤではないんですよ
174

196 わが内にも棲む
176

197 働いてはいても社会人になっていなかった
178

198 どうしてあんな男と
180

199 不幸な人でないと親切にできないのか
182

200 私はかまわないけど
184

201 ふつうの人を見くびっている人にはわからない
186

*

202 無理はしたくないから
190

203 狭められゆく交友時間
192

204 賢くなることが絶対に必要
194

205 オバサンになっても幸せにしてくれますか
196

206	誰にも心を開かず、誰とも親和する	198
207	まだ生きていてもいいかい	200
208	現在を過去に照らし、過去を現在に照らして	202
209	私、卑しくなってますか	204
210	批判してもらえなくなったら終わりなのに	206
211	同じ気持ちだと思いますから	208
212	国に棄てられた人びとを忘れず	210
213	オジサンみたいなオバサンも増えてきたよね	212
214	私たちを見くびらないでもらいたい	214
215	一緒に考えるというような人間関係が暮らしのなかにないのだな	216
216	いい人でいたい人というのは困るのよね	218
217	まだ一人も海にとどかないのだ	220
218	十五分前には着いているように心がけております	222

219 父を軽蔑してきた私だから、その遺産を自分のためには使えない
224

220 そんな保身は、結局、身を護らないのに
226

221 だから、リクエストした
228

222 奥さんとか呼ばれない日々
230

223 それって、出会いを楽しくする厚かましさよね
232

224 自分で選べないということが、月刊絵本のよさです
234

225 戦わされて殺されて神様にされ
236

226 心療内科で薬をのみながらの看病です
238

227 得たのはお金だけという働き方はしなかった人ね
240

228 自分のふるさとは、場所ではなく、昨日まで生きてきたすべて
242

*

229 善いことをしている人たちの無神経さかしら
246

242	妻にちゃんと批判されていないのね	272
241	その辛さを言ってもよかったのね	270
240	まだ足りないという後ろめたさがつきまといま	268
239	地雷をふむ方か 地雷をふませる方か	266
238	感性に固く張りついたうろこを削ぎ落とす	264
237	みずからを発色させる	262
236	しばし共鳴す	260
235	お母さんも子どもに教わってみたら	258
234	せっかく主婦が就職するのだから	256
233	夫婦円満になってしまつて、がっかりです	254
232	あなた、言いにくいのだろうと思つて	252
231	べつに話し合っているわけではないと思う	250
230	彼女、やつと子どもの話をしなくなったね	248

243	存在振りこぼしゆく	274
244	ひとさまの不幸で食べさせてもらっている身ですから	276
245	夫が大統領なんかになったらいやあね	278
246	視野が狭くなくては研究はできません	280
247	みんなが言っているときこそ、自分を確かめなくては	282
248	結婚しないと生きていけなかったから	284
249	夫のカネは私たちのもの 私のカネは私のもの	286
250	問題についてはちゃんと批判できるようでありたいな	288
251	こういうこととしてバランスをとっているのよ	290
252	今日会えたのだから、きつと、また会えるよ	292
253	たくさんの時を共有してきた	294
254	ガマンの限界	296
255	手書き文字の一字だに無き手紙を寄せ	298

256

美しい言葉とは

300

注

302

あとがき

306

解説

上野千鶴子

309

索引

続

女のせりふ

伊藤雅子

